

学力調査分析結果

さる 4 月 17 日(木)に実施いたしました「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりましたので、本校の分析・今後の指導方針を下記の通りご報告いたします。

【成果】

教科	問題番号	内容	県との比較
国語	2四ア、イ	言葉の特徴や使い方に 関する事項	+8
	3二(2)	読むこと	+10
	3三(2)	読むこと	+12
算数	1(2)	データの活用	+9
	1(3)	データの活用	+8
理科	4(1)	粒子	+21
	3(2)	生命	+12
	3(4)	生命	+21

・国語の「読むこと」「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の領域や、算数の「データの活用」、理科の「粒子」「生命」といった実生活との関連性が高いものや、理科では実験を行い実体験できた内容の正答率が高い結果でした。実感を得られる授業には、実生活とつなげる学習や実体験をともなう授業デザインが施されており、このような結果となっていると考えられます。

【課題】

教科	問題番号	内容	県との比較
国語	1二	情報の扱い方に 関する 事項	-12
算数	2(3)	図形	-6
理科	2(4)	エネルギー	-4

・国語の「情報の扱い方にに関する事項」や算数の「図形」の中の「角」の問題、理科では「エネルギー」といった子どもたちの実生活になじみのない問題や実感しにくい問題の正答率が低い結果となりました。また、発展的な問題の正答率が低いことも課題です。原因としては、なじみががないため学習内容に実感がもてないまま学習が終わっていることや、講義型授業により基礎的な知識は身につけているが、発展的な内容については自分自身の納得解をもてないまま学習が終わっていることが考えられます。このことは、質問紙での(32)、(33)、(34)、

(35)《表Ⅰ》の結果でも裏付けることができます。

《表Ⅰ》

質問	本校（当てはまると答えた児童）	福井県（当てはまると答えた児童）
(32) 5年生までに受けた授業は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	21.1%	30.4%
(33) 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	21.1%	31.5%
(34) 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	28.9%	39.1%
(35) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	34.4%	44.2%

【改善策】

①児童の考えから広げ、対話を通して納得解を得られる授業を行っていく

→自分の経験上にはないものについては特に児童一人一人が納得した考えをもつことで定着が図られると考えます。そのため、教師から知識を一方的に教え込む授業を行っても定着はしにくく、対話を通して児童同士で様々な考えを共有し、考えを再構築する授業を展開し、一人一人が納得解をもてるよう支援していきます。

②実生活や身の回りとの関連に気付ける授業を行っていく

→身近に感じられる学習内容だけでなく、児童の世界観とのつながりが薄い学習内容についても実生活や身の回りとの関連を見出せる授業展開を行います。分析結果からも児童の世界観から離れる問題ほど正答率が低くなっているため、授業内で実感を伴うように意識して授業づくりを行っていきます。

10月3日（金）に「第2回指導主事学校訪問公開授業」が本校で行われました。今回は、5年1組において国語の授業を公開授業として行い、教育長をはじめ、教育審議監、指導主事の方、あわら市内の小学校の先生方にも参観していただきました。公開授業終了後は、研究会を行いました。今回の授業では、改善策である「**児童の考えから広げ、対話を通して納得解を得られる授業**」を目指したものであったことから、対話についての熱心な議論が行われました。後期も、児童の学力や学習状況がより向上するよう、教職員一同日々務めてまいります。今後とも、ご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。